

第7期 事業
報告書

平成17年1月1日 ▶ 平成17年12月31日



アンジェス MG株式会社

証券コード4563

Top Interview

トップインタビュー



代表取締役社長 山田 英

『株主のみなさまへ』

株主の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

また、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年は企業収益の回復を受けて設備投資が増加し、個人消費も緩やかに増加しており、国内景気は引き続

き緩やかな回復基調にありました。しかし、国境を超えた競争が激しさを増す中で、回復基調にある日本経済がさらなる復活を遂げるには、ライフサイエンスなど技術集約的な先端領域での国際的な競争力の飛躍的な進展が不可欠です。当社は、バイオテクノロジー分野でグローバルな展開を目指していますが、規模拡大を目指す大手製薬企業とは一線を画し、その存在意義を十分に認識していかなければなりません。

アンジェス MGは、画期的な遺伝子医薬品の開発を通して既存の競争に巻き込まれることのない新たな市場を開拓し、これまでにない価値を提供することによって、株主価値の最大化を図ってまいります。

第7期（平成17年1月1日から平成17年12月31日まで）の業績面においては、事業収益24億30百万円（前期比9.9%減）、経常損失18億70百万円（前期の経常損失は15億58百万円）と減収減益となりました。現在は先行投資の段階にあり赤字幅は拡大しておりますが、米国におけるHGF遺伝子治療薬の第Ⅱ相臨床試験の症例登録が終了するなど研究開発はさらなる展開を見せております。

株主の皆様には今後とも格段のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

『HGFは第Ⅲ相臨床試験を継続中』

Q HGF遺伝子治療薬プロジェクトの開発状況を教えてください。

A 当社のプロダクトの中で最も開発が先行しているのがHGF遺伝子治療薬です。

国内においては末梢性血管疾患（Peripheral Arterial Disease、PAD）を対象とした第Ⅲ相臨床試験を実施しております。遺伝子治療に対する理解を深めていただくため、医学専門雑誌などを含め、広く啓蒙活動にも努めました。我々の医薬品の上市（医薬品の販売開始）を待っている患者さんのためにも一日も早く臨床試験を終了させ、早期に当局への承認申請に持ち込みたいと考えております。

また、米国においてはPADを対象とした第Ⅱ相臨床試験、虚血性心疾患（Ischemic Heart Disease、IHD）を対象とした第Ⅰ相臨床試験を進めてまいりました。両試験とも、既に症例登録を完了し、近いうちに試験結果が明らかになる予定です。

Q NF κ Bデコイオリゴプロジェクトにおけるアルフレッサ ファーマ株式会社との提携の背景についてお聞かせください。

A 平成17年6月にアルフレッサ ファーマ株式会社との間でNF κ Bデコイオリゴのアトピー性皮膚炎領域における共同開発契約を締結いたしました。この契約により開発費負担を軽減することが可能となりました。また、この契約では上市後の自社販売権



を留保しており、研究開発型の“バイオベンチャー”から、研究開発から販売までの一貫したプロセスを有する“製薬企業”へのステップアップも意図した提携となっています。

この提携後、平成17年9月に国内においてアトピー性皮膚炎を対象とした第Ⅰ相臨床試験を開始することができました。今年には第Ⅱ相臨床試験に入る予定です。

Q HVJ-Eベクター事業では株式会社ファルコバイオシステムズと提携されたということですが？

A 平成17年12月に株式会社ファルコバイオシステムズ（以下、ファルコ社）との間で新規疾患関連遺伝子を用いた遺伝子検査法の開発に関して共同事業契約を締結いたしました。この契約により、HVJ-E非ウイルス性ベクター等を利用した遺伝子探索により特定分野（生活習慣病など）の有用候補遺伝子を同定し、探索した有用候補遺伝子について遺伝子検査法への利用に係る独占的な実施権をファルコ社に対して許諾した場合には、事業規模に応じた対価を受け取ることができます。

『経営基盤の強化で将来の成長を確かなものに』

Q 3つの主要プロジェクト以外にも経営基盤強化のために開発候補品を増やしたいとのことですが、ドイツのアヴォンテック社との提携はその一環でしょうか？

A その通りです。当社のようなバイオベンチャーでは、有望なプロダクトに資源を集中するのが重要なのは言うまでもありませんが、その一方で開発候補品を多く持ち、リスクを分散させることも忘れてはいけません。そのため、平成17年8月にドイツの核酸医薬開発ベンチャーであるアヴォンテック社との間で、デコイ型核酸医薬に関するクロスライセンス契約を締結いたしました。この契約により、当社は、アヴォンテック社が開発中のSTAT-1デコイオリゴの喘息等の呼吸器及び皮膚疾患領域におけるアジア地域の権利を確保し、その対価としてNFκBデコイオリゴの乾癬領域における欧州地域の権利を供与しました。

Q 投資事業組合を設立されましたが、設立の意図を教えてください。

A この投資事業組合は、バイオ・サイト・キャピタル株式会社（以下、BSC社）が無限責任組合員として組成し、日興プリンシパル・インベストメンツ株式会社（以下、NPI社）と当社が有限責任組合員として出資しております。

投資対象は国内医薬・医療関連企業や欧米バイオベンチャー企業であり、当社は投資先企業との事業提携やノウハウなどの提供を通して、また、BSC社とNPI社は財務・ライセンス面で投資先企業をサポートすることにより、それぞれ企業価値向上を図ることを企図しています。結果として、当社グループの企業価値も高まるものと期待しています。

Q 最後に平成18年度の抱負をお聞かせください。

A 今年はHGF遺伝子治療薬を中心とした国内外の現行プロダクトの最大限の進捗と同時に、導入品による開発パイプラインの強化、販売面など事業インフラの整備など、次の事業段階に向かっての基礎を固めていくことが極めて大事な目標と考えています。ぜひ、これまで以上に、これからのアンジェス MGにご期待ください。

医薬品開発の状況

プロジェクト	対象疾患	地域	前臨床	第Ⅰ相	第Ⅱ相	第Ⅲ相	上市	主な提携先
HGF遺伝子治療薬	末梢性血管疾患	日本	→					第一製薬株式会社
		米国	→					
	虚血性心疾患	日本	→					未定
		米国	→					
	パーキンソン		→					
NFκBデコイオリゴ	アトピー性皮膚炎	日本	→					アルフレッサファーマ株式会社
	乾癬	欧州	→					アヴォンテック社
	関節リウマチ		→					未定
	変形性関節症		→					未定
	血管再狭窄予防		→					株式会社グッドマン

一般的な新薬開発のプロセスと期間

プロセス	期間	内容
基礎研究	2～3年	新規物質の創製及び候補物質の絞り込み
前臨床試験	3～5年	実験動物を用いて、有効性及び安全性を確認する試験
臨床試験	3～7年	第Ⅰ相：少数健康人を対象にして、安全性及び薬物動態を確認する試験
		第Ⅱ相：少数患者を対象にして、有効性及び安全性を確認する試験
		第Ⅲ相：多数患者を対象にして、既存薬との比較により有効性及び安全性を確認する試験
申請・承認	1～2年	国(厚生労働省)による審査

Main Project

主要プロジェクト

1 HGF遺伝子治療薬

当社は、血管が詰まり血流が悪くなっている虚血性疾患に対して、血管を新生するというこれまでにない治療薬を目指し、HGF遺伝子治療薬の開発を進めております。HGF (Hepatocyte Growth Factor、肝細胞増殖因子^{*1}) は、肝臓の細胞を増殖させる働きのある蛋白質として1984年に大阪大学大学院医学系研究科の中村敏一教授により発見されました。最初は、肝臓の病気の治療薬として研究されていましたが、HGF遺伝子の投与により血管が新生することが、1995年に大阪大学の森下竜一寄附講座教授により明らかにされています。

【対象疾患】

血管が詰まることにより生じる病気には、末梢性血管疾患^{*2}や、虚血性心疾患^{*3}があります。これらの病気は重症になると、薬による治療だけではなく外科的な治療を施しますが、それでも十分に回復しなかったり、外科的な施術が困難だったりする場合があります。HGF遺伝子治療薬は、こうした他に治療法がなく、足を切断せざるを得ないような重篤な症例に対しても効果が期待されています。

手術ではなくHGF遺伝子を注射で患部に注入するという簡便な方法で血管を新生させ、詰まった部分をバイパスして新しい血流をつくり、虚血を改善することを目指しております。

【開発状況】

国内においては末梢性血管疾患を対象として第Ⅲ相臨床試験を実施しております。

米国においては末梢性血管疾患を対象として第Ⅱ相臨床試験を、虚血性心疾患を対象として、第Ⅰ相臨床試験を

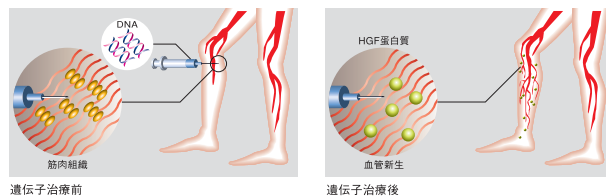
実施しており、両試験とも既に症例登録を完了し、近いうちに試験結果が明らかになる予定です。

このような血管新生療法は、米国では、VEGF (Vascular Endothelial Growth Factor、血管内皮細胞増殖因子) やFGF (Fibroblast Growth Factor、線維芽細胞増殖因子) 等を用いた遺伝子治療の臨床試験が行われ、血流が回復して足の切断を免れた症例も報告されております。HGFは、これらの遺伝子治療薬より血管新生作用が強いことが動物試験等で示されており、しかもVEGFで見られる浮腫の副作用が見られていないことから、有効性と安全性の両面で競合品と差別化できると考えております。

【提携状況】

末梢性血管疾患及び虚血性心疾患領域については、第一製薬株式会社と販売提携しております。

注射によるHGF遺伝子治療（末梢性血管疾患）



用語解説

※1 肝細胞増殖因子 (Hepatocyte Growth Factor)
肝細胞から発見された増殖因子で、血管新生作用を有するほか、発生過程における器官形成や傷害に伴う組織・器官の再生において重要な役割を担います。

※2 末梢性血管疾患 (Peripheral Arterial Disease)
四肢の末梢血管が閉塞することにより、筋肉や皮膚組織が虚血状態に陥り、しびれ、冷感、間歇性跛行、安静時疼痛、下肢潰瘍などの症状を示します。閉塞性動脈硬化症やパーヴァー病があります。

※3 虚血性心疾患 (Ischemic Heart Disease)
心臓を養う動脈 (冠動脈) がある程度狭窄すると、労作時に十分な血液が流れず、胸苦しさや胸痛などの症状を示す狭心症や、冠動脈が完全閉塞し、心筋組織が虚血状態になる心筋梗塞があります。

2 NF κ Bデコイオリゴ

NF κ Bデコイオリゴは過剰な免疫反応を原因とする病気を治療することが期待されています。

遺伝子医薬には大きく分けると二つの種類があります。一つは、HGF遺伝子治療薬のように遺伝子そのものを利用するもの、もう一つは核酸合成機で人工的に作成した遺伝子を利用するものです。後者は、遺伝子そのものではなく、遺伝子の構成成分の一部のみを使うため人工遺伝子と呼ばれたり、核酸からできているので核酸医薬と呼ばれたりしています。NF κ Bデコイオリゴはこの核酸医薬の一種です。

NF κ Bとは免疫反応を強める遺伝子のスイッチである転写因子で、アトピー性皮膚炎などの炎症性疾患の発症に重要な役割を果たしていると考えられています。遺伝子は、転写因子がゲノムに着地してスイッチが入りますが、デコイは、そのゲノム上の転写因子結合部分と同じ配列を含む短い核酸（DNA）を人工的に合成したもので、体内に投与すると転写因子がゲノムに着地することを阻害して遺伝子の働きを抑えます。NF κ Bという鍵がゲノムという鍵穴と結合する前に、デコイ（おとり）を使って、鍵穴に鍵が入るのを防ぐわけです。NF κ BデコイオリゴはNF κ Bと結合してその働きをブロックします。

この治療法は、1995年に大阪大学の森下竜一寄附講座教授により発明されました。

【対象疾患】

NF κ Bデコイオリゴの対象となる病気には、過剰な免疫反応を原因とするアトピー性皮膚炎、乾癬、関節リウマチなどがあります。これらの病気では、免疫反応を強める遺伝子が過剰に働いており、NF κ Bデコイオリゴを投与し、遺伝子の発現を調節することで、病気の治療を期待することができます。

【開発状況】

国内においてアトピー性皮膚炎領域を対象とした第Ⅰ相臨床試験を進めております。平成18年度は第Ⅱ相臨床試験に入る予定です。乾癬、関節リウマチ、変形性関節症、血管再狭窄予防*4領域については有効性や安全性などを動物試験等で確認する前臨床試験を進めております。

【提携状況】

アトピー性皮膚炎領域についてはアルフレッサ ファーマ株式会社と共同開発を進めております。

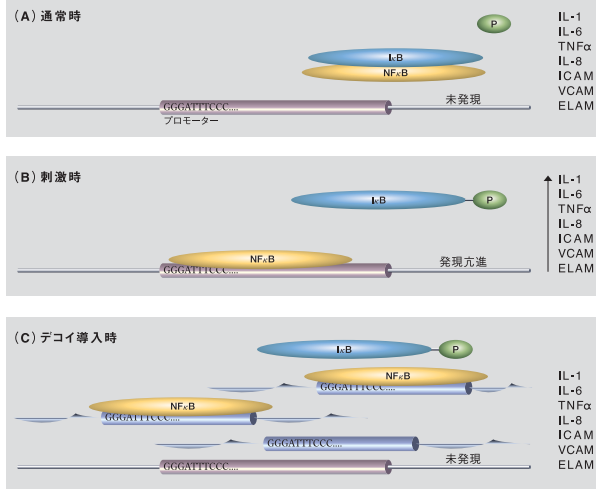
血管再狭窄予防領域においては株式会社グッドマンと業務提携をしております。

用語解説

※4 血管再狭窄予防

（血管の）狭窄とは、血管が詰まり狭くなってしまうことです。動脈硬化により生じる冠状動脈などの狭窄は、主にバルーンカテーテルを用いた血管拡張術（いわゆる風船療法）により狭窄部位を広げる治療法が用いられています。しかしながら、この手法は、30～40%の症例において、（再度血管の詰まる）再狭窄が生じるという欠点があり、血管拡張術後の再狭窄を予防できる製品の開発が期待されています。

NF κ Bデコイオリゴの作用原理



3 HVJエンベロープベクター

遺伝子が体内でうまく働くためには、細胞の中に入らなければなりません。遺伝子は、そのまま細胞に近づくことはできても、細胞の中に入っていきはできません。遺伝子治療には、細胞の膜を突破し、細胞の中に遺伝子を運ぶ役目をする優れたベクター（運び屋）が必要になります。

HVJ（Hemagglutinating Virus of Japan、別名センダイウイルス）は、1950年代に日本で発見されたウイルスです。このHVJの中のゲノムを全て除去し、膜のみを用いるベクターがHVJエンベロープベクター（以下、HVJ-E非ウイルス性ベクター）です。このベクターの製造方法が、2000年に大阪大学の金田安史教授により発明されました。

【DDS事業】

HVJ-E非ウイルス性ベクターは、膜に細胞を融合（細胞融合）する作用があることから、遺伝子を細胞に導入する効率が高く、しかもウイルスゲノムが全て除去されているため、ヒトに対する安全性も高いベクターです。

HVJ-E非ウイルス性ベクターは、遺伝子治療への応用のほか、核酸医薬や蛋白医薬、さらに低分子化合物など従来からある医薬品の薬剤吸収を向上する薬剤送達システム（Drug Delivery System、DDS）として有効である可能性があります。

【遺伝子機能解析事業】

HVJ-E非ウイルス性ベクターは、創薬や診断薬に利用できる新規有用遺伝子を発見する研究に用いることができます。ベクターに調べたい遺伝子を封入し、細胞や臓器に遺伝子を導入することで、実際にどのような影響が出るかを観察することで新規有用遺伝子を見つけることができます。

【開発状況】

癌免疫療法剤や、遺伝子医薬用DDSとして医薬品分野に応用する研究開発を実施しております。

創薬シーズや診断薬の探索研究としては、大阪大学の金田安史教授や、産業技術総合研究所と共同で開発しております。高速遺伝子機能解析デバイスの製品化に向けた研究と、同デバイスを利用した疾患関連遺伝子、診断・検査用遺伝子の探索研究を実施しております。

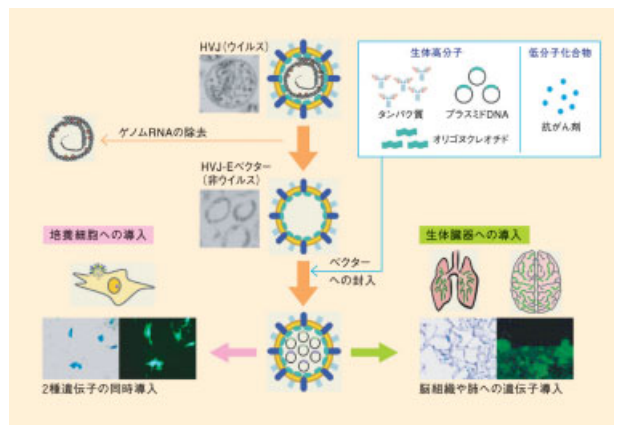
【提携状況】

HVJ-E非ウイルス性ベクターの遺伝子機能解析用試薬キットを主とする関連製品に関する全世界独占の実施権を石原産業株式会社に許諾しており、同社からHVJ-E非ウイルス性ベクターと補助剤をキット化した「GenomONE®」などが発売されております。

また、株式会社ファルコバイオシステムズとの間で、新規疾患関連遺伝子を用いた遺伝子検査法の開発に関して共同事業を進めております。

（注）「GenomONE®」は石原産業株式会社の商標です。

HVJ-E非ウイルス性ベクターによる遺伝子導入システム



C Consolidated Financial Statements

連結財務諸表

連結貸借対照表 (要旨)

(単位：千円)

科目	当 期 (平成17年12月31日現在)	前 期 (平成16年12月31日現在)
資産の部		
1 ▶ 流動資産	7,863,027	9,488,373
2 ▶ 固定資産	1,151,152	520,991
有形固定資産	206,575	219,492
無形固定資産	385,000	248,713
投資その他の資産	559,576	52,786
資産合計	9,014,180	10,009,364
負債の部		
流動負債	1,500,268	1,240,312
3 ▶ 負債合計	1,500,268	1,240,312
少数株主持分		
少数株主持分	56,936	112,526
資本の部		
4 ▶ 資本金	5,503,862	5,156,314
資本剰余金	3,814,604	6,453,707
利益剰余金	△ 1,859,112	△ 2,940,607
その他有価証券評価差額金	66	△ 900
為替換算調整勘定	△ 2,445	△ 11,989
資本合計	7,456,975	8,656,525
負債、少数株主持分及び資本合計	9,014,180	10,009,364

POINT 1 ▶ 【流動資産】

外部研究施設への前渡金が3億56百万円増加したものの、研究開発投資に伴う支出により現金及び預金が18億24百万円減少しました。この結果、流動資産は前期末に比べて16億25百万円減少しております。

POINT 2 ▶ 【固定資産】

HGF遺伝子治療薬の遺伝子投与方法に関する独占的ライセンス権の獲得により無形固定資産は1億36百万円増加し、バイオ・サイト・イノベーション1号投資事業有限責任組合への出資や研究施設利用権の取得により投資その他の資産が5億6百万円増加しました。この結果、固定資産は前期末に比べて6億30百万円増加しております。

POINT 3 ▶ 【負債】

提携先からの前受金が増加したことにより、負債は前期末に比べて2億59百万円増加しております。

POINT 4 ▶ 【資本】

ストックオプションの行使により、資本金及び資本準備金がそれぞれ3億47百万円増加しましたが、当期純損失を19億5百万円計上した結果、株主資本は前期末に比べて11億99百万円減少しております。なお、定時株主総会の決議に基づき資本準備金を取り崩し、資本剰余金を29億86百万円欠損の填補に充当しております。

POINT 5 ▶ 【事業収益】

アルフレッサ ファーマ株式会社や株式会社ファルコバイオシステムズとの契約により契約一時金を計上しましたが、提携先からの開発協力金の減少により、事業収益は前期比9.9%減となりました。

POINT 6 ▶ 【経常損失】

研究開発投資を進めた結果、研究開発費は前期比3.1%増の37億91百万円となり、結果として経常損失は18億70百万円となりました。

POINT 7 ▶ 【営業CF】

税金等調整前当期純損失の増加により前期に比べて支出が2億52百万円増加しております。

POINT 8 ▶ 【投資CF】

研究開発資金の一時的な運用のため、安全性を考慮した上で投資をしていた有価証券や投資有価証券の償還額が前期より減少したことや、バイオ・サイト・イノベーション1号投資事業有限責任組合へ出資を行ったことなどにより、前期に比べて支出が32億98百万円増加しております。

POINT 9 ▶ 【財務CF】

ストックオプションの権利行使に伴う株式の発行による収入が減少し、前期計上していた連結子会社ジェノメディア株式会社の第三者割当増資に伴う少数株主への株式発行による収入がなかったため、前期に比べて収入が2億11百万円減少しております。

連結損益計算書（要旨）

（単位：千円）

科 目	当 期	前 期
	(自 平成17年1月1日 至 平成17年12月31日)	(自 平成16年1月1日 至 平成16年12月31日)
5 事業収益	2,430,467	2,696,299
事業費用	4,401,465	4,257,342
研究開発費	3,791,806	3,679,079
販売費及び一般管理費	609,658	578,263
営業損失	1,970,998	1,561,043
営業外収益	117,134	13,755
営業外費用	16,973	11,701
6 経常損失	1,870,836	1,558,989
特別利益	85	62,967
特別損失	77,507	44,844
税金等調整前当期純損失	1,948,258	1,540,866
法人税、住民税及び事業税	12,486	10,228
少数株主損失	55,590	9,623
当期純損失	1,905,155	1,541,472

連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：千円）

科 目	当 期	前 期
	(自 平成17年1月1日 至 平成17年12月31日)	(自 平成16年1月1日 至 平成16年12月31日)
7 営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,686,519	△ 1,433,547
8 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 336,126	2,962,171
9 財務活動によるキャッシュ・フロー	688,074	899,705
現金及び現金同等物に係る換算差額	10,332	3,101
現金及び現金同等物の増減額	△ 1,324,238	2,431,430
現金及び現金同等物の期首残高	7,003,451	4,572,021
現金及び現金同等物の期末残高	5,679,212	7,003,451

連結剰余金計算書（要旨）

（単位：千円）

科 目	当 期	前 期
	(自 平成17年1月1日 至 平成17年12月31日)	(自 平成16年1月1日 至 平成16年12月31日)
資本剰余金の部		
資本剰余金期首残高	6,453,707	6,081,734
資本剰余金増加高	347,547	371,973
資本剰余金減少高	2,986,650	—
資本剰余金期末残高	3,814,604	6,453,707
利益剰余金の部		
利益剰余金期首残高	△ 2,940,607	△ 1,399,134
利益剰余金増加高	2,986,650	—
利益剰余金減少高	1,905,155	1,541,472
利益剰余金期末残高	△ 1,859,112	△ 2,940,607

貸借対照表 (要旨)

(単位：千円)

科 目	当 期 (平成17年12月31日)	前 期 (平成16年12月31日)
資産の部		
流動資産	7,648,276	9,012,489
固定資産	1,263,906	660,104
有形固定資産	139,943	171,897
無形固定資産	330,915	201,803
投資その他の資産	793,048	286,403
資産合計	8,912,183	9,672,593
負債の部		
流動負債	1,417,291	1,050,122
負債合計	1,417,291	1,050,122
資本の部		
資本金	5,503,862	5,156,314
資本剰余金	3,814,604	6,453,707
資本準備金	3,814,604	6,453,707
利益剰余金	△ 1,823,641	△ 2,986,650
当期末処理損失	1,823,641	2,986,650
その他有価証券評価差額金	66	△ 900
資本合計	7,494,891	8,622,471
負債資本合計	8,912,183	9,672,593

損益計算書 (要旨)

(単位：千円)

科 目	当 期 (自 平成17年1月1日 至 平成17年12月31日)	前 期 (自 平成16年1月1日 至 平成16年12月31日)
事業収益	2,291,791	2,669,149
事業費用	4,200,883	4,212,402
研究開発費	3,617,659	3,656,673
販売費及び一般管理費	583,224	555,729
営業損失	1,909,091	1,543,253
営業外収益	116,298	18,452
営業外費用	18,531	11,337
経常損失	1,811,325	1,536,139
特別利益	—	118
特別損失	6,506	44,533
税引前当期純損失	1,817,831	1,580,553
法人税、住民税及び事業税	5,810	3,602
当期純損失	1,823,641	1,584,156
前期繰越損失	—	1,402,493
当期末処理損失	1,823,641	2,986,650

損失処理計算書

(単位：千円)

科 目	当 期 (平成17年12月期)	前 期 (平成16年12月期)
当期末処理損失	1,823,641	2,986,650
損失処理額	—	—
資本準備金取崩額	—	2,986,650
次期繰越損失	1,823,641	—

Corporate Data

会社概要 (平成18年3月30日現在)

会社名：アンジェス MG株式会社
(英文名：AnGes MG, Inc.)
会社設立：平成11年12月
決算期：12月31日
資本金：5,503百万円 (平成17年12月31日現在)
従業員数：62名 (平成17年12月31日現在)

■事業所

■本社

〒567-0085 大阪府茨木市彩都あさぎ七丁目7番15号
彩都バイオインキュベータ4階

■彩都研究所

〒567-0085 大阪府茨木市彩都あさぎ七丁目7番15号
彩都バイオインキュベータ4階

■東京支社

〒108-0014 東京都港区芝五丁目20番14号 三田鈴木ビル5階

■役員

代表取締役社長	山田 英
取締役	中塚 琢磨
取締役	森下 竜一
取締役	榎 史朗
取締役	岩谷 邦夫
常勤監査役	池田 勉
監査役	遠山 伸次
監査役	菱田 忠士

■アンジェス MGグループ

会社名	資本金 主要な事業内容	当社議決権比率
アンジェス インク	100千ドル 米国での遺伝子医薬品の臨床開発	100.0%
アンジェス ユーロ リミテッド	50千英ポンド 欧州での遺伝子医薬品の臨床開発	100.0%
ジェノメディア 株式会社	196,250千円 遺伝子治療用ベクター及びドラッグデリ バリーシステムの研究開発、新規有用遺 伝子及び分子の探索、遺伝子機能解析	61.6%

Stock Information

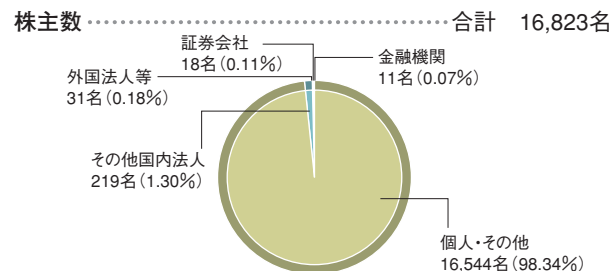
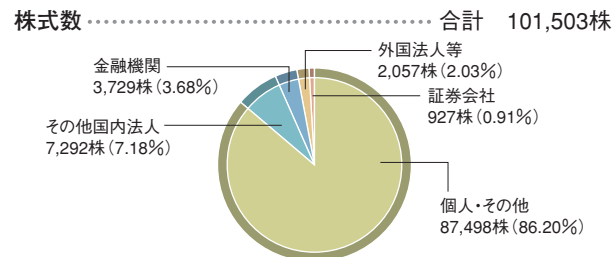
株式の状況 (平成17年12月31日現在)

会社が発行する株式の総数 246,976株
(注) 平成18年3月30日開催の定時株主総会において定款の一部変更が行われ、
会社が発行する株式の総数は同日より123,488株増加し、370,464株となっ
ております。
発行済株式の総数 101,503株
株主数 16,823名

■大株主の状況

株主名	持株数	議決権比率
森下 竜一	12,170株	11.99%
中村 敏一	7,000株	6.90%
有限会社イー・シー・エス	4,625株	4.56%
バイオフロンティア・グローバル投資事業組合 業務執行組合員 株式会社バイオフロンティアパートナーズ	2,461株	2.43%
森下 翔太	2,400株	2.37%
森下 真弓	2,200株	2.17%
小谷 均	2,195株	2.16%
坂田 三和子	1,500株	1.48%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	1,391株	1.37%
坂田 恒昭	1,340株	1.32%

■所有区別 株式分布状況



株主メモ

決 算 期 12月31日
定 時 株 主 総 会 3月中
基 準 日 12月31日(利益配当金)
6月30日(中間配当金)
名 義 書 換 代 理 人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社
同 事 務 取 扱 場 所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同 連 絡 先 〒137-8081
東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-232-711(通話料無料)
同 取 次 所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
野村證券株式会社 本店及び全国各支店
公 告 掲 載 新 聞 日本経済新聞
貸借対照表及び損益計算書掲載のホームページアドレス
http://www.anges-mg.com/ir_financial.htm

ホームページをご覧ください。

最新のニュースリリースやIR資料などを掲載しております。ぜひご覧ください。

— ホームページアドレス —

<http://www.anges-mg.com>



ANSES

この事業報告書に関するお問い合わせ先
東京支社 03-5730-2753